

わが街・わが地域の史跡・遺跡を訪ねる（7）

—下新木の旧長福寺と「依田千代止斯・久尔子之墓」—

我孫子市史研究センター 飯白 和子

国道 356 号の新木駅入口の信号を布佐方向に進むと、「新木野入口」のバス停があります。その手前、左側に、右に「玉楼山」、左に「長福寺」と刻まれた門柱が建っています。現在は下新木自治会集会所の建物がありますが、もと長福寺というお寺でした。長福寺も明治 8 年（1875）、明治維新政府の政策で廃寺になりました。

旧境内には、榊八幡社・大師堂・観音堂（もと薬師堂）・天神社・稲荷社の順に祀られています。また、近在から移設された石造物や記念碑などが多数あります。歴代住職の墓塔なども祀られています。

●沿革 玉楼山と号し、中峠の龍泉寺の末寺（真言宗）。創建は、『湖北村誌』に龍泉寺の中興開山である永樂法印が、永禄元年（1558）、この地に隠棲し長福寺を建立したとありますが、近在から長享 2 年（1488）の「権律師寛永」と刻まれた板碑が発見されていることから、それ以前から寺院が営まれていた可能性もあります。江戸幕府は慶長 8 年（1603）の開幕ですから、長福寺の創建はかなり古いこととなります。本尊は、十一面千手観音菩薩。明和 4 年（1767）、下総三十三観音霊場が創られると第 22 番札所に、安永 4 年（1775）ころには新四国相馬霊場の第 81 番札所（讚岐白峰寺写し）にもなっています。

●観音堂（薬師堂とも） 方二間、切妻造り、瓦葺。中の仏壇上段中央に、本尊十一面千手観音（厨子入り）、左に寛文 8 年（1668）の石造薬師如来、右に不動明王坐像（厨子入り）が祀られ、下段に釈迦如来坐像、三十三観音像、木造大師像などが祀られています。向拝の柱には、「下総観音第二十二番」の札が掛けてあります。

●大師堂 方一間、向拝付、正面唐破風の切妻造り、瓦葺。明治 32 年（1899）に再建され、胴板には十六羅漢の彫刻が施されています。彫物師は、葺不合神社の本殿と同じ北相馬郡北方（現龍ヶ崎市）の後藤藤太郎です。堂の中には、文化 4 年（1807）銘の取手の石工平吉の作による石造り弘法大師像が安置されています。

●旧領主・旗本依田氏一族の墓 歴代住職の墓石と並んで、「依田千代止斯之墓、依田久尔子之墓」と刻まれた碑があります。明治 14 年（1881）5 月と 11 月に相次いで亡くなっています。依田氏は、もと武田信玄・勝頼に仕えた武将で、武田氏滅亡後は徳川家康に仕え 4 代信重のときには 2500 石の旗本になっています。延宝 2 年（1674）、信重の代から新木村の領主となります。翌年、信重は隠居し嫡男が宗家を継ぎ、次男信方が分家し新木村を治めることになりました。以降 194 年間続きま、源助の代に明治維新を迎えます。

徳川家は 70 万石に減封され、依田氏も家禄を失います。源助は、新木村に帰農し百姓になります。そして、葺不合神社の神主となり、新木の香取神社・古戸の稲荷神社・日秀の将門神社・中里の諏訪神社・中峠の八幡神社・天照神社の神主を兼務し、明治 21 年 11 月 15 日に死去しています。

（引用文献：『神社明細帳』千葉県公文書館・『市史・民俗文化財篇』）



下新木・旧長福寺



観音堂(左)・大師堂(右)



依田千代止斯・久尔子の墓